

病害虫発生予報 第1号(4月予報)	令和7年3月26日 岐阜県病害虫防除所
------------------------------------	------------------------

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
麦	赤かび病	栽培地域全域	平年並	多
なし	赤星病	栽培地域全域	平年並	やや少
	黒星病	栽培地域全域	平年並	やや多
イチゴ	ハダニ類	栽培地域全域	－	多
	うどんこ病	栽培地域全域	－	やや少
施設野菜	灰色かび病	栽培地域全域	－	イチゴ：やや多 トマト：やや少
	コナジラミ類	栽培地域全域	－	イチゴ：やや多 トマト：やや多

(発生時期の－は連続発生)

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）
<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・対策等】

I 普通作物

1 麦

赤かび病	対象地域	発生時期＜感染最盛期＞	発生量
	栽培地域全域	平年並	多

(1) 予報の根拠

- ア 麦の生育は、平年並であった（±）。
- イ 前年度の発生量は、多かった（+）。
- ウ 向こう1ヶ月（3/22～4/21）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～+）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 各ほ場の生育進度は、は種時期により異なるため、生育状況を良く確認し、防除適期である開花始めとその10日後の2回防除を確実に実施する。
 - イ 開花から10日間は特に感染しやすく、開花期～乳熟期に多雨、曇天が続くと多発しやすいため注意する。
- ※病害虫図鑑「赤かび病について」も参考にしてください。

II 果樹等作物

1 なし

赤星病	対象地域	発生時期＜感染最盛期＞	発生量
	栽培地域全域	平年並＜4月第4半旬＞	やや少

- (1) 予報の根拠
- ア 発芽期は、平年並であった(±)。
 - イ 前年の発生量は、少なかった(－)。
 - ウ 向こう1ヶ月(3/22～4/21)の気象予報によれば、気温は平年並～高く(±～+)、降水量は平年並(±)と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 展葉期から開花終期頃までの降雨により胞子が多く飛散するため、この間は降雨前に予防的防除を実施する。
 - イ 早くから気温が高く、上記期間の降雨が多い年に発生が多くなるため注意する。
- ※病害虫図鑑「なし赤星病について」も参考にしてください。

黒星病	対象地域	発生時期＜初発生＞	発生量
	栽培地域全域	平年並＜5月第1半旬＞	やや多

- (1) 予報の根拠
- ア 発芽期は、平年並であった(±)。
 - イ 前年の秋期発生量は、岐阜・西濃地域で少なく(－)、中濃地域が多かった(+)。
 - ウ 向こう1ヶ月(3/22～4/21)の気象予報によれば、気温は平年並～高く(±～+)、降水量は平年並(±)と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 開花直前から開花後約2週間(受粉終了直後)までに降雨が多いと発病が増加するため注意する。
 - イ 栽培暦に従い、適期防除を実施する。
- ※病害虫図鑑「なし黒星病について」も参考にしてください。

Ⅲ 野菜

1 イチゴ

ハダニ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

- (1) 予報の根拠
- ア ほ場での寄生株率は、岐阜・西濃で低く(－)、中濃地域が高かった(+)。
 - イ 向こう1ヶ月(3/22～4/21)の気象予報によれば、気温は平年並～高く(±～+)、降水量は平年並(±)と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、同一系統薬剤の連用は避け、葉裏によくかかるように散布する。
 - イ 天敵を導入している施設では、影響の少ない剤を選択する。
- ※病害虫図鑑「イチゴ ハダニ類について」も参考にしてください。

うどんこ病	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

- (1) 予報の根拠
- ア ほ場での発病株率は、低かった(－)。
 - イ 向こう1ヶ月(3/22～4/21)の気象予報によれば、気温は平年並～高く(±～+)、降水量は平年並(±)と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、葉裏までよくかかるように散布する。
- ※病害虫図鑑「イチゴ うどんこ病について」も参考にしてください。

2 施設野菜

灰色かび病	対象地域	発生量
	栽培地域全域	イチゴ：やや多 トマト：やや少

(1) 予報の根拠

- ア イチゴにおける発病果率は、岐阜・西濃地域で高く（＋）、中濃地域で平年並であった（±）。トマトにおける発病株率はやや低く（－）、発病果率は低かった（－）。
- イ 今後気温の上昇に伴い、暖房機の運転時間が少なくなること、施設内の空気の動きも悪くなり、早朝時等の濡れ時間が増加する（＋）と予想される。
- ウ 向こう１ヶ月（3/22～4/21）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤耐性がつきやすいので同一系統の薬剤の連用は避ける。
 - イ トマトでは葉先枯れや花がら、イチゴでは収穫後の果梗などの枯死部位が発生源となるため、早めに取り除き処分する。
- ※病虫害図鑑「トマト 灰色かび病について」も参考にしてください。

コナジラミ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	イチゴ：やや多 トマト：やや多

(1) 予報の根拠

- ア ほ場での発生量は、施設トマト内における黄色粘着板での誘殺数は平年並（±）、イチゴにおける寄生株率は、岐阜・西濃地域で高く（＋）、中濃地域で低かった（－）。
- イ 向こう１ヶ月（3/22～4/21）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、葉裏によくかかるように散布する。
 - イ 天敵を導入している施設では、影響の少ない剤を選択する。
- ※病虫害図鑑「トマト コナジラミ類について」も参考にしてください。

病虫害防除所ホームページに、病虫害発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病虫害の防除上の注意事項等については、「病虫害図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

[参考資料 1]

【令和 7 年度 病虫害発生予報 公表予定日】

- 第 2 号（5 月予報）：4 月 2 5 日（金）
- 第 3 号（6 月予報）：5 月 2 8 日（水）
- 第 4 号（7 月予報）：6 月 2 7 日（金）
- 第 5 号（8 月予報）：7 月 2 9 日（火）
- 第 6 号（9 月予報）：8 月 2 7 日（水）
- 第 7 号（10 月予報）：9 月 2 6 日（金）

[参考資料 2]

【3月の調査における病害虫発生量】

作物名	病害虫名	調査地点での発生量：3月	
		岐阜・西濃地域	中濃地域
イチゴ	ハダニ類	少	多
	うどんこ病	少	少
施設野菜	灰色かび病	イチゴ：多	イチゴ：平年並
		トマト：少	－
	コナジラミ類	イチゴ：多	イチゴ：少
		トマト：やや多 キュウリ：少	－ キュウリ：少

[参考資料 3]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）－名古屋地方気象台 令和7年3月20日発表－

《予想される向こう1カ月の天候（3月22日から4月21日）》

- ・天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・向こう1カ月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40％です。降水量は、平年並の確率40％です。日照時間は、平年並の確率40％です。
- ・週別の気温は、1週目は、高い確率80％です。2週目は、低い確率40％です。3～4週目は、高い確率40％です。

[向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各等級の確率（％）]

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

[気温経過の各階級の確率（％）]

	低い	平年並	高い
(1週目) 3/22～3/28	10	10	80
(2週目) 3/29～4/4	40	30	30
(3～4週目) 4/5～4/18	30	30	40

[参考資料 4]

【用語の基準と使用法】

- 1 半 旬 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。
- 2 時 期 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
やや早 平年値より3～5日早い。
やや遅 平年値より3～5日遅い。
早 平年値より6日以上早い。
遅 平年値より6日以上遅い。
- 3 発生量 平年並 平年値を中心として、その値が±20％以内。
やや多 平年値より、その値が21～40％多い。
やや少 平年値より、その値が21～40％少ない。
多 平年値より、その値が41％以上多い。
少 平年値より、その値が41％以上少ない。
- 4 平年値 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。